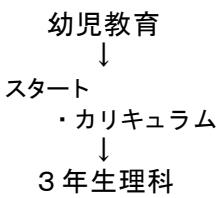


「わたしのあさがおさん☆おおきくなあれ！」

(14時間扱い)
授業者 酒谷明子

1 教材の特徴 学習内容の系統性



学習指導要領のおさえと本単元のねらい

本単元は内容項目(7)動植物の飼育・栽培の内容にあたります。「幼児期に育成したい10の資質」の中の「自然との関わり・生命尊重」との系統性を大切にし、今年度本校で作成したスタート・カリキュラムの流れから本単元を設定しました。幼児期に育まれた身近な動植物に親しみをもって接する心や生命の尊さに対する気付き、身近な動植物をいたわったり大切にしたりする活動を、生活科での飼育・栽培活動につなげるため、スタート・カリキュラムの「学校探検」の一部である校外探検の中で、学校周辺の自然に目をむけ、自然に対する気付きを大切にする活動を行いました。子供たちはスタート・カリキュラムの中で、自然に対するたくさんの気付きや学校園を整備してくれている用務員さんとの出会いなどから、「自分たちも何かを育てたい。」という思いや願いをもち、朝顔の栽培をスタートさせています。

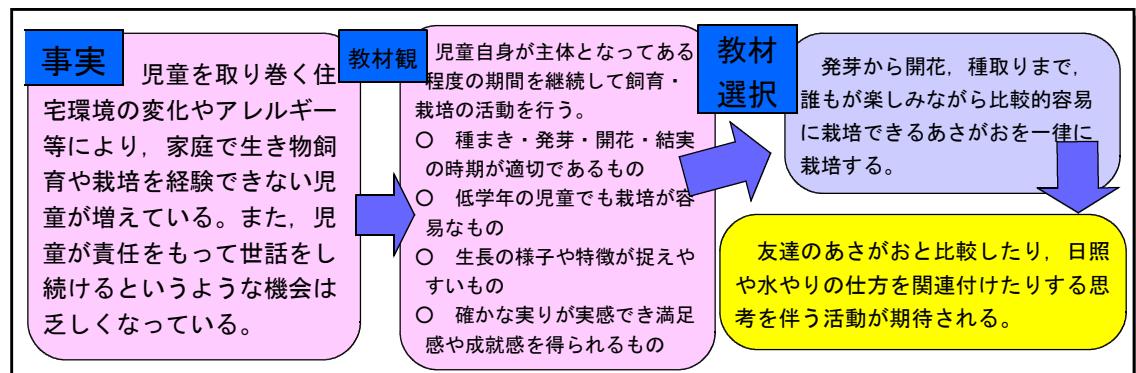
本単元ではあさがおを育てる活動を通して、あさがおの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、あさがおが生命をもっていることや生長していることに気付くとともに、「生き物への親しみをもち、大切にしようとする」(学習指導要領生活科 p. 43)ことをねらいとしました。

この単元での活動が第3学年「身の回りの生物」の内容である「生命」についての基本的な概念等を柱とした「生物の構造と機能」、「生命の連續性」、「生物と環境の関わり」につながっていきます。3年生でもこの内容については実際に飼育・栽培を通して生物の差異点や共通点を基に、「問題を見出す力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成すること」をねらいとしています。また、3年生の栽培については「栽培が簡単で、身近に見られるもので、夏生一年生の双子葉植物を扱うようになります」とあります。(学習指導要領理科 p. 40, 41)

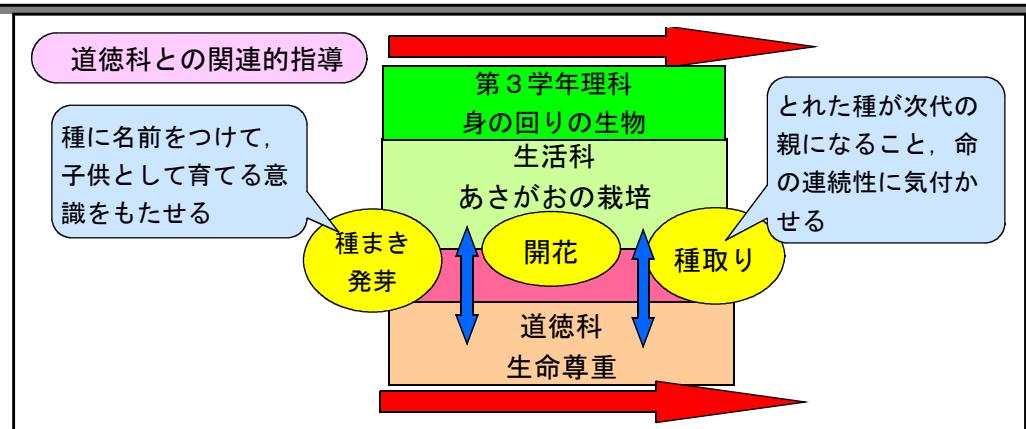
そのため、上位学年での学習内容への系統性も考え、本単元では栽培の対象をあさがおとしました。

教材の意義

朝倉淳 (2018)



中心となる概念



本単元は、活動の中で「あさがお」が生命をもっていることや生長していることに気付き、生命の尊さや命の連續性について深く実感しなければ、最終目標に到達できないと考えました。そこで、生活科では道徳科との合科・関連的な視点から本単元の核となる概念に迫っていきます。「あさがおの発芽」を生命の誕生ととらえ、あさがおの発芽を題材とした導入で道徳科では生命の誕生についての教材で学習を進めます。また、「あさがおの生長」の段階を追いかながら、道徳科では「あさがおの命」と道徳科での題材とを擦り合わせながら学習を進めるといった、合科・関連的な指導を進めていきます。生活科での経験や体験と道徳科の指導を切り離して別々に指導するのではなく、道徳的価値への理解が浅くなり、実践への意欲の高まりを期待することはできません。実際の体験を通して具体的に気付かせる指導の方が学習効果が高いことは明らかです。そこで、生活科・道徳科双方の指導の効果を高めることができるような単元を構成しました。

2 本単元の目標と学習内容を身に付けた姿、具体的支援（課題設定、追究、パフォーマンス、メタ認知）

目標

おさがおの世話をしたり、観察したりする活動を通して、関心をもってあさがおに働きかけることができ、あさがおが生命をもっていることや生長していること、栽培を続けた自己自身の成長に気付くとともに、あさがおへの親しみをもち、大切にすることができる。

本単元で鍛える 見方・考え方 ○ あさがおの世話を通して、あさがおが育つ場所、世話の仕方、変化や生長の様子に気付くとともに、自分の世話の仕方や世話をしてきた心持ちの変容などに気付く。

○ あさがおとの関わりから、世話をする楽しさや喜びを味わい、世話を頑張った自分、優しく接することができた自分に気付き、どんな生き物にも関心をもって働きかけようとする。

「子供が学びをつくる」ための具体的支援



メタ認知を促す 場の設定

① あさがおを擬人化し、「自分の子供」として育てることで、常に「命あるもの」としてあさがおを見つめ、かかわり、世話をしていくことへの自覚を促すことができると言えます。また、あさがおを観察する際、常にあさがおと対話するよう促し、あさがおがどんなことを話していたかを聞くという支援を行うことで、子供はあさがおについての状態を把握し、無自覚な気付きを得ることができます。あさがおの葉がしおれているのに気付く⇒「あさがおさんが水が飲みたいって言ってるよ。」⇒今までの水やりでは足りなかったんだな。⇒これからもっとあさがおさんに水をあげなきや。

② 「あさがおさん元気かな相談会」を設定し、みんなのあさがおが元気かどうかを考える活動を行います。相談会で友達のあさがおと自分のあさがおを比べて自分の世話のあり方を見つめ直したり、友達の世話の仕方についてアドバイスしたりすることで、①で得た無自覚な気付きが関連付けられていくと言えます。生活科では、他者と交流することで気付きが関連付けられていく過程を「メタな視座に立つ」ことの一つと押さえます。

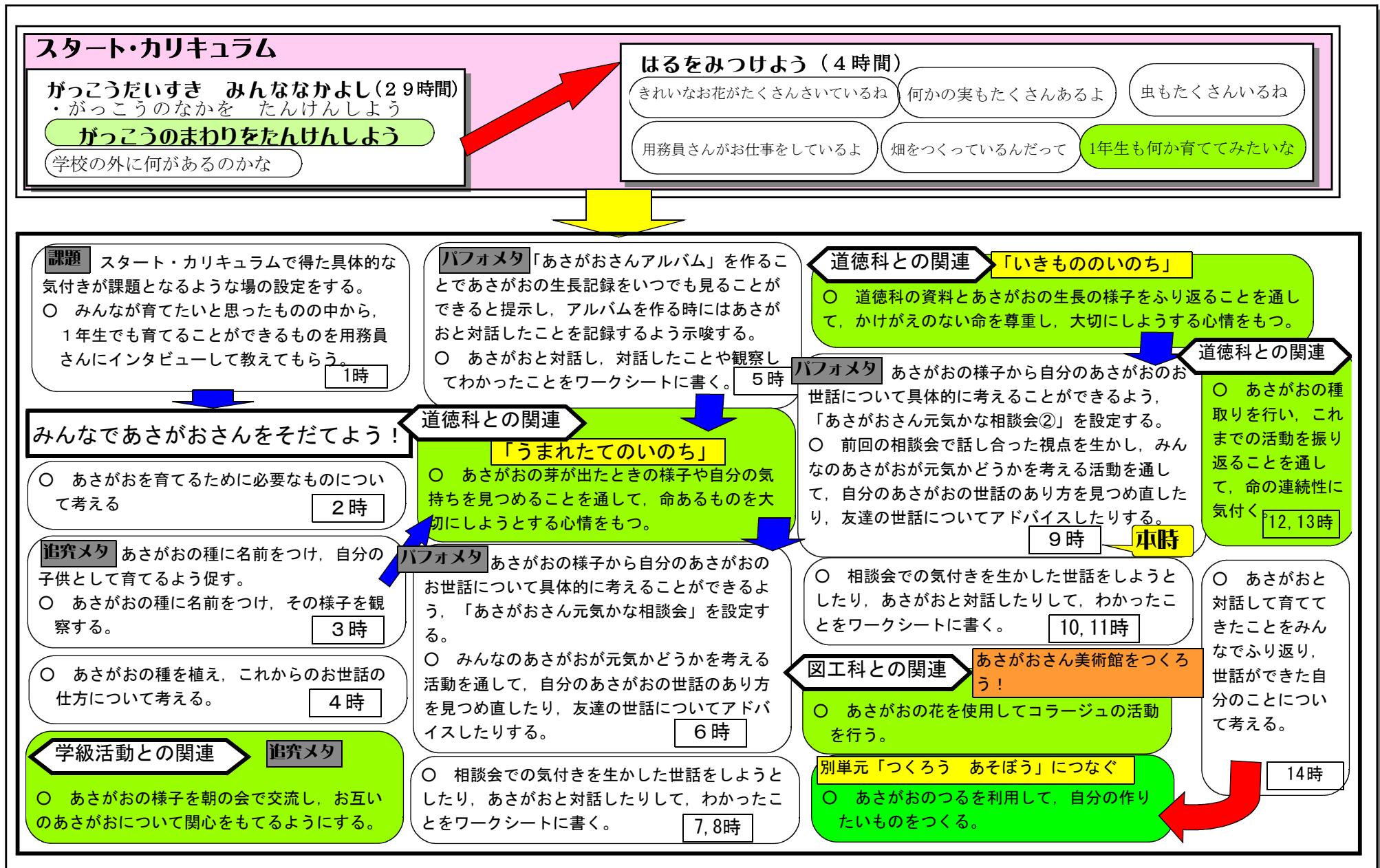
メタ認知を表 出する手立て

「あさがおさんアルバム」を作成することを通して、あさがおの生長の様子を絵や文に表し、「あさがおさんとお話したこと」が記録として残るようにします。これまでの世話の記録を振り返る活動を設定し、自分の活動の振り返りを通してメタな視座に立ち、自分自分の心の変容についても考えることができるようにします。

本単元の学習内 容を身に付けた 姿

- あさがおの世話を通して、あさがおの生長や変化から生命の営みを実感し、世話の仕方について自ら判断しようとしたり考え直したりして新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自らあさがおに働きかけようとする。
- あさがおの世話を続けることができた自分の成長に気付き、他の生き物に対しても関心をもって働きかけようとする。

3 単元計画



本時の目標

「あさがおさん元気かな相談会」でみんなのあさがおが元気かどうかを考えることを通して、自分のあさがおの様子を捉え、これからのお世話について見通しをもつことができる。

学習活動（○）と子供の姿

教師の支援（☆、課題、追究、パフ、メタ）と評価（◇）

- ① 最近のあさがおの様子について伝え合う。

ぼくのあさがおさんは、そろそろ花がさくんじゃないかな。

わたしのあさがおさんは、何だか最近元気がないんだよね。

- ② 前回の「相談会」の視点を想起する。

- ・友達にお世話の仕方を相談したよ
- ・友達にアドバイスしてあげたよ

☆ あさがおの様子について振り返ることができるよう、活動の様子の画像をテレビに映す。

課題 うまく育っていないあさがおを取り上げ、以前の「相談会」を想起できるような声掛けをし、みんなでどうしたらいいか考えるよう促す。

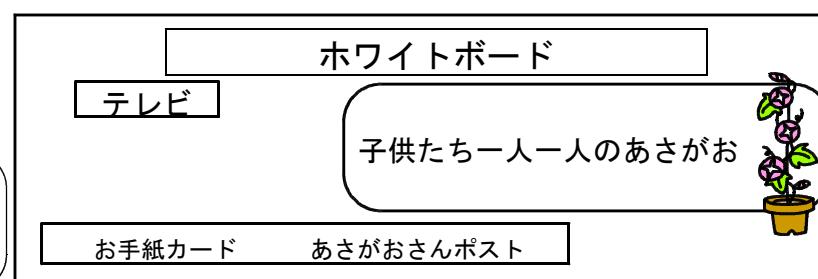
- ③ みんなのあさがおが元気かどうかを確かめるために、みんなのあさがおと対話したり観察したりする。

〇〇くんのあさがおさんは、葉っぱがピンとしていて元気だよ！

どうして〇〇くんのあさがおさんは、元気なのかな？

わたしのあさがおさんは倒れそう！どうしたらいいかな？

みんなに相談したら、いい方法がみつかるかも！



メタ 後で自分のあさがおと友達のあさがおを比較することができるよう、前回の相談会を想起するような対話をしながら、自分や友達のあさがおと対話する時の視点づくりをする。

- ・葉の様子
- ・花の様子
- ・土の様子
- ・茎の様子

- ④ 自分や友達のあさがおの様子について気付いたことを交流する。

すごく元気でうれしいよ！これからも毎日お世話するからね。

いろいろな色の花が咲いていたよ。すごくきれいだね！

葉っぱがしおしおのおさがおさんがあって、かわいそうだなって思ったよ。

お水が足りないんじゃないの？どのくらいお水をあげてるの？

倒れそうになってるあさがおさんには、どうしてあげたらいいんだろう？

メタ みんなのあさがおが元気になるためにはどうしたらいいのか考えるよう促す。

- ⑤ 「あさがおさんポスト」にあさがおが元気になるための方法やみんなに相談したいことのお手紙を書いて入れる。

やっぱりたくさんお話しをあげることが大事なんだよね！

葉っぱが虫に食べられちゃったみたいなんだ。みんな、どうしたらいい？

葉っぱがしおしおの場合は、どのくらいお水がほしいかよくお話を聞いてあげたらいいんだよ。

虫がついていないかどうか、いつも気にしておかないといけないんだよ。

追究パフォ みんなに相談したいことや、アドバイスしてあげたいこと、あさがおに話したいことをお手紙に書くよう促す。

- ⑥ ポストにあるお手紙にの中身について全体共有し、あさがおの世話の仕方について今後の見通しをもつ。

葉っぱが虫に食べられないようにするためには、鉢を置く場所を考えるといいみたい。今度は草があんまりないところに置いてみるよ。

あさがおさんが倒れないようにするためには、立ててある棒をテープで留めるといいかかもしれないと思ったよ。

友達と一緒に考えたら、これからどうしたらいいかわかったよ！

◇ 自分や友達のあさがおの様子に気付き、これからの世話の仕方について考えている。【思判表】
☆ ポストの中身を紹介しながら、今日の学習で気が付いたことを友達に伝えるよう促す。